

● 事業名

岸和田市連携事業

● 1. 岸和田サテライトの概要

和歌山大学岸和田サテライトは、2003年に締結された「和歌山大学・岸和田市地域連携推進協定」に基づき、2006年に岸和田市立浪切ホール（現：南海浪切ホール）に開設された。岸和田サテライトの4つの事業の柱は、

- ① 地域住民の多様な専門教育ニーズを満たすための高等教育（大学院・学部開放授業）の実施、
- ② 地域研究や地域課題を踏まえた生涯学習の機会提供（わだい浪切サロン等）、
- ③ 大学資源の活用によって地域課題を解決するための地域研究・連携事業、
- ④ 募集要項や大学案内の配布などによる、地域に対する大学情報の発信、である。



岸和田サテライトのある
南海浪切ホール

● 2. 2022年度の実施内容

(1) 高等教育事業

① 大学院経済学研究科授業

コロナ禍の影響により前期・後期ともに、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施した。

2022年度前期 科目名	担当教員	受講者数		
		院生	科目等履修生	合計
会社法	経済学部 清弘 正子准教授	4	1	5
地域調査法	経済学部 藤田 和史准教授	7	2	9
労働経済論	経済学部 岡田 真理子准教授	5	2	7
管理会計論	経済学部 藤原 靖也准教授	17	1	18
合計		33	6	39

2022年度後期 科目名	担当教員	募集定員		
		院生	科目等履修生	合計
憲法	経済学部 森口 佳樹教授	1	3	4
国際経済学	経済学部 岡部 美砂准教授	1	1	2
交通政策	経済学部 辻本 勝久教授	6	1	7
通商政策	経済学部 藤木 剛康准教授	4	1	5
合計		12	6	18

② 学部開放授業

コロナ禍の影響により、教室定員の約半分を募集定員として受け付け、開講した。

2022年度前期 科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	社会人	合計
地域観光戦略論B (地域課題探求型)	経済学部 藤田 和史准教授 足立 基浩教授 戦略情報室 満田 成紀教授 観光学部 竹林 浩志准教授 国際観光学研究センター プロガノ・ニコラス特任講師 ゲスト講師	15	13	28
現代社会の教育課題 ～在住外国人の現状と課題～ (地域課題探求型)	日本学教育研究センター 長友 文子教授 和歌山信愛大学 教育学部 江口 怜助教 ゲスト講師	15	6	21
SNSと子どもの世界 (地域課題探求型)	教育学部教職大学院 豊田 充崇教授 ゲスト講師	15	3	18

2022年度後期 科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	社会人	合計
ポストコロナ社会における心身 と暮らしを考える (文化・教養型)	経済学部 阿部 秀二郎教授 金川 めぐみ教授 教育学部 小関 彩子准教授 片淵 美穂子准教授 本村 めぐみ准教授 東京医科大学医学部 岩谷 潤兼任助教 ゲスト講師	15	7	23

災害の文化と地域の祭礼 (文化・教養型)	システム工学部 平田 隆行准教授 教育学部 山神 達也准教授 紀伊半島価値共創基幹 吉村 旭輝准教授 宮定 章特任准教授 ゲスト講師	15	17	32
-------------------------	--	----	----	----

どの授業も、コロナ感染防止に配慮しながらも、社会人聴講生と大学生が議論しながらアイデアを作り上げていく場を多く設けていた。受講者アンケートにおいては、「社会人をはじめ学生の方が、課題に対して真面目に考え、発言している姿に感心しました。」「グループディスカッションでは普段関わることのない社会人の方ともお話しでき、より視野を広げることのできる機会となりました。」などの意見が寄せられた。



(2) わだい浪切サロン (2月・8月を除く毎月第三水曜日に実施)

一般の方々に、和歌山大学教員の研究テーマや時事的トピックスを身近に提供する機会として、144回を重ねている。コロナ感染防止に配慮しつつより多くの方々に聞いていただけるよう、昨年度3月より定員を制限した対面実施と、その様子をオンライン同時配信するハイブリッド形式で開催を継続している。

No.	日程	テーマ	話題提供者	参加者数
135	4月20日(水)	田楽躍りと泉州大津村の田楽法師	和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 吉村 旭輝准教授	対面参加 10 オンライン 22
136	5月18日(水)	地域と観光 —岸和田の未来を考える—	和歌山大学 観光学部 竹林 浩志准教授	対面参加 13 オンライン 33
137	6月15日(水)	アルプスに生まれた“スイスのワインと食” 知られざるその魅力	スイスワイン研究家 井上 萬葡氏	対面参加 22 オンライン 55
138	7月20日(水)	日頃からソフト防災で備えよう ～アプリで災害対策～	和歌山大学 システム工学部 吉野 孝教授	対面参加 15 オンライン 47
139	9月21日(水)	月と太陽とカレンダーの不思議な話 —なぜ、2月は28日までなのか?!	和歌山大学 クロスカル教育機構 佐藤 祐介講師	対面参加 26 オンライン 44
140	10月19日(水)	日本人なら知っておきたい日本語の面白さ —外国語と比べるとそのユニークな世界が見えてきた!—	和歌山大学 教育学部 西山 淳子准教授	対面参加 34 オンライン 45
141	11月16日(水)	今見過ごせない食卓の危機! ～農と食をつなぐもの～	和歌山大学 食農総合研究教育センター 岸上 光克教授	対面参加 23 オンライン 43
142	12月21日(水)	新しい福祉が始まる 増進型地域福祉への展開	桃山学院大学 ソーシャルデザイン学科 小野 達也教授	対面参加 18 オンライン 27
143	1月18日(水)	生体防御の最終兵器“抗体”: コロナ・ワクチンから抗体医薬まで	大阪公立大学研究推進機構 藤井 郁雄特任教授	対面参加 16 オンライン 41
144	3月15日(水)	今振り返る災害の記憶 —室戸台風が岸和田に残した爪痕とは?—	和歌山大学 クロスカル教育機構 橋本 唯子准教授	対面参加 22 オンライン 30

第135回～第144回の参加者アンケートにおいては、「手段として観光を使う、さまざまなモノ、一般住民までも観光に含まれるというのは、目からうろこでした。こうした視点でわが街を見直したいと思いました。」「今までの私に持っていなかった視点の提供がなされていて興味深かった。」「知らないことを知ることの楽しさを感じられたひとときでした。また「知識」から「行動」へと、行動することの大切さをおっしゃっていたのが個人的に心に響きました。」「理想を掲げどのような状態、どのようにしたいかという思考回路は参考になりました。福祉以外の日常のすべての事にも適応できると感じます。この考え方をこれから生かしたいと思います。」などの感想が寄せられた。

● 3. 今後の課題

岸和田サテライトは、2023年度末に失効する現行の戦略ビジョンを改訂する作業を進めている。今後、大学が持つシーズを活用し、地域課題をより効率的・効果的に解決していくためにはどのような道筋が考えられるか模索していて、今後新しい戦略ビジョンに取り入れられることが期待されている。次年度は、その端緒として、ターゲットを、一般の方から民間企業までより幅広にとらえ、ニーズを聞き取り、和歌山大学のシーズを活用し、それぞれに合わせてカスタマイズされた、リカレント・リスクリングコンテンツを提供していく手法や枠組みの構築を試みる。

事業に関するお問い合わせ

岸和田サテライト

E-mail : kishiwadastaff@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/>

